

児童発達支援自己評価表 [事業者向け] 令和6年度

児童発達支援 キッズクラブコフジ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		クラス別活動では、部屋を分けて行うことでそれぞれの発達レベルに合わせた活動をゆとりあるスペースで提供できるようにするなどの工夫をしています。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		定数以上の配置をしています。保育士、臨床心理士、社会福祉士などの専門職を配置しています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		物の置き場や活動場所、一日のスケジュールなどがわかるように、写真や絵カードを使用した視覚提示をおこなうなど、構造化をしています。
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか	○		毎日しっかりと清掃を行い、清潔を保持しています。
業務改善	⑤	事業者改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		個別支援計画会議やモニタリング会議を行い、児童個別の療育目標を達成できたか、出来ていないかの振り返りを全員参加で行い、情報を共有しています。
	⑥	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者の皆さまから頂いたご意見を全員に共有し、良い点は更に伸ばせるように、出来ていない点は改善していけるように話し合いを行っています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページで公表しています。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか		○	第三者評価は実施していません。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		外部研修（オンライン含む）へ積極的に参加するほか、職場内研修を実施して支援力や質の向上に努めています。
	⑩	アセスメントを行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		NCプログラムによる領域別発達アセスメントの結果を基に支援計画を作成し、発達支援を行っています。また、家庭と協力して社会生活能力検査実施し、結果を共有することで現状の把握と支援に役立てています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		NCプログラムによるアセスメントを実施しています。併せて、S-M社会生活能力検査を実施しています。
	⑫	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		職員で話し合いのうえ、「全体活動プログラム」「クラス活動プログラム」を年間で計画。それをさらに月計画として組む。計画に則って療育プログラムを提供し、児童それぞれのレベルに合わせながら集団療育、グループ療育、個別療育を提供しています。

連携関係機関や保護者との連携

⑬	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	その日の利用児童の特性や嗜好を考慮しながら、計画、準備をしてマンネリ化しないように工夫しながら実施しています。
⑭	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○	児童毎に担当職員と児童発達支援管理責任者が支援計画を立案、作成。その支援計画を全体で共有し、支援にあたっています。
⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○	集団の中で各児童の発達段階に合わせて行う集団療育と個室で行う個別療育の取り組みを組み合わせ、支援計画に反映させながら行っています。
⑯	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○	朝礼を通して今日の活動内容や意義・目的を確認し、役割分担をして取り組んでいます。
⑰	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○	毎日、送迎終了後に、職員で振り返りを行っています。また、居ない職員へは、翌日の朝に報告を行い情報共有をしています。
⑱	日々の支援に関して正しく記録を取る事を徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	出来るだけ個別支援計画に沿った記述をするように心がけると共に、その時々課題や気になることを中心に、その日に登園したすべての児童について記録をとっています。記録は全員が必ず閲覧し、確認印を押すようにしています。
⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	定期的に支援計画を確認しながら支援を実施支援している。達成度を確認し、上手くいっていなければアプローチを変更するなどしています。
⑳	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○	子育て支援センターや相談支援機関、併用する幼稚園や保育園との情報共有、情報交換を行っています。
㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	児童発達支援管理責任者が出席するようにしています
㉒	移行支援として、保育園や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	幼稚園やこども園、保育園へ移行(並行利用)するにあたっては、訪問や電話による打ち合わせを行っています。また、情報共有シートを作成し移行先への情報提供を行っています。
㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	小学校等への就学にあたっては、情報共有シートを作成して保護者へお渡ししています。また、特別支援学校とは電話や面談を通じて情報提供、引継ぎを行っています。
㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	福岡市西部療育センターとの情報共有や、糸島市内における他の児童発達支援事業所との連携を行っています。
㉕	保育園や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○	並行利用の児童が殆どであり、交流保育はニーズとしてあまり高くないと認識しています。ニーズがあれば、当法人が運営する保育園との交流など行っていきたいと考えています。
㉖	(地域自立支援)協議会児童部会等へ積極的に参加しているか	○	糸島市自立支援協議会児童部会は年3回開催されており、可能な限り参加するようにしています。
㉗	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	連絡帳による伝え合いはもちろん、日々の送迎や保護者による送り迎えの時に情報共有をおこない、発達課題等についても共通理解を図るようにしています。

	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	○	家庭でできる発達支援の視点を持った関わり方等の助言はおこなっていますが、家族支援プログラムとしては実践できていません。
保護者への説明責任等	㉑	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	契約時に、出来るだけ分かりやすいようにご説明をしています。
	㉒	児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	出来るだけ具体的でわかりやすい内容になるように配慮しています。
	㉓	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	半年に1回の定期面談の他、保護者様よりご相談があった際には電話や面談を通して丁寧に助言を行うようにしています。
	㉔	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	保護者会は保護者様のご負担等を考慮し組織しておりません。保護者参観は実施していますが、保護者同士の連携を支援するものにはなっていないと感じています。
	㉕	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	苦情受付窓口等については契約書に記載しており、連絡先等をご説明するとともに、玄関先に苦情解決制度のご案内ポスターを貼るなどして周知しています。また、相談があった場合には迅速丁寧な対応を心掛けています。
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	毎月1回、お便りを各家庭に配布しているほか、LINEを活用した情報発信や保護者との連絡のやりとりを行っています。
	㉗	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○	各家庭の承諾書に基づいた取扱いを徹底するほか、電子画像等については、その取扱いに十分注意をしています。
	㉘	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	各児童のコミュニケーションレベルや課題に合わせ、視覚支援等を通して意思疎通への配慮をしています。
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営を図っているか	○	安全面の観点から施設内へ地域住民を招き入れることはしていません。また、環境の変化に敏感な特性を持つ児童もいることから、どのような交流機会が持てるのか検討してまいります。
非常時の対応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	○	各マニュアルを策定していますが、保護者への周知が十分に出来てはいません。今後はホームページに掲載するなどして周知を図ってまいりたいと思います。
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	近年は災害発生のリスクが高まっているため、毎月1回、地震や火災、水害、不審者侵入などを想定した訓練を行っています。
	㉜	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を把握しているか	○	利用開始前に健康面や服薬の状況については丁寧に聞き取りをしています。
	㉝	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	必ず、年に一度は虐待防止研修に参加するほか、外部研修等を通じて権利擁護について学ぶ機会を設けています。
	㉞	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	身体拘束については「切迫性」「非代替性」「一時性」を要件とし、法令に則って行うものであるが、現在対象となるケースは無く、身体拘束は一切行っていません。

④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	利用開始前には、食物アレルギーの有無について聞き取りを行っています。当施設では除去食の対応が難しいためお弁当やおやつを持参してもらっています。
④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	小さなヒヤリハット・事故事例を積み上げ、全職員へ周知、対応を検討することで大きな事故へとつながないようしています。

